

地域文化賞

郷土史研究 3人に贈る

功勞賞

関口さん
藤岡

研究賞

高島さん
前橋

奨励賞

青木さん
渋川

来年1月1、2の両日にJR高崎駅西口駅前通りで開かれる高崎だるま市について、高崎市と民間でつくる実行委員会(安藤震太郎会長)は3日、新型コロナウイルス対策の詳細を公表した。高崎南小にドライブスルーでだるまを購入できる別会場を設けるのをはじめ、入り口に消毒液のシャワーを全身に噴霧する装置を設置、出店関係者ら約400人には事前PCR検査を実施する。

対策費は概算で2000万円程度を見込む。入場できる場所を制限し、ウイルスに効果がある混合酸化剤を来場者に噴霧する。

PCR検査はだるま販売員や飲食の出店関係者、イベント出演者らを対象として12月下旬に行

ドライブスルー販売 消毒液のシャワー 400人にPCR検査

高崎だるま市の 感染対策200万円

う。感染者が確認された店は出店しない。

だるま市の例年の開催費用は約2000万円。今年は倍増となるが、新型コロナウイルス対策の追加費用については市が補助する。主な負担はPCR検査が数百万円、会場と初詣スポットを巡回するバスの定員減に伴う増便など。

だるま販売は今年と同じ約50店を予定している。富岡賢治市長は「(コロナ禍での)イベントのモデルケースにしたい。徹底的に対策すれば新型コロナウイルス対策と経済は両立できる」と強調した。

前橋中心街に 図書館整備案

再開発でJVが提案

前橋市千代田町の中心市街地再開発計画を巡り、最大地権者の市は3日、大和リース群馬支店を代表とする6社の共同企業体(JV)による事業協力者から、市立図書館を整備する提案を受けていることを明かした。

同日開かれた市議会総括質問で笠間良一都市計画部長が答え、「老朽化した市立図書館の整備については



読者の声

足元の現実

「日本はブラック。そんな雰囲気は今、ベトナム人に出てきていますよ」

指摘したのは、鉄道設備の維持管理などを担う相川管理(前橋市)会長の相川重幸さん(74)。ベトナム人の今を追った上毛新聞の連載「集住地の陰で」(11月24〜29日付)を読み、連絡をくれた。

同社は昨年11月からベトナム

ベトナム人と日本

人の男性(足を見込みて働く。以来、初め6人は仕事をして高です。は、新型は、彼らの道が急に横らなかつた教育したば「勝手に

一体的に検討していく方針を示した。

市街地整備課は「まだ確定ではなく、あくまでも案の一つ」としている。同課によると、11月末をめどにまとめる予定だった基本構想は内容の精査に時間を要し、年度内にずれ込む見通しだという。

太田のベトナム人13人の1人追起訴

前橋地検

の翻刻、紹介などを行っている。高い研究意欲と優れた資質を持ち、今後の活躍が期待されている。

同賞は初代県史編さん専門委員会の委員長を務めた故石川薫氏の遺志を受け、群馬地域文化振興会が創

り、

本県を含む北関東で相次いだ家畜や果物の大量窃盗